

第8回 神戸川の河川環境等に関する協議会(会議概要)

日時 令和5年3月23日(木)

14:00～16:00

会場 県出雲合同庁舎702会議室

(注意) この会議概要は、事務局や委員が報告した事項、質疑等における各委員の主な発言の概要をまとめたものです。資料を説明しているところは、用いた資料名を明示し、資料内容と同じ発言部分などは省略しています。

1. 議事

(1) 委員紹介

事務局から第7回協議会以降に就任した委員を紹介

(2) 座長選任、副座長の指名

飯野委員から齋藤委員を座長に推す発言があり、委員に諮ったところ満場一で齋藤委員に決まり、齋藤座長から副座長に三瓶委員が指名された。

(3) 経過報告

事務局から資料2により第7回協議会以降の経過を報告した。

また、幹事会会長である飯野委員から、幹事会が行っている「将来に向けた歴史的経緯の整理」の取組状況について次の補足があった。

○飯野委員(学識者)

- ・流域住民の代表委員から課題を提起していただき、それに対して県、出雲市、そして中国電力が、どのような議論を経てこれまで対応してきたかということについて、主に公文書を確認しながら、一つ一つ疑問点をなくしていくという作業をやっている。
- ・この作業にはもう少し時間を要する。この歴史的経緯の整理に時間を使っているが、本協議会は、情報共有であるとか、意見交換、そして一番大事な信頼の醸成を主眼としているので、丁寧に時間をかけながら、みんなが合意できる形で進めていきたい。

2. 神戸川の河川環境調査の実施について

この協議会の委員で、神戸川の河川環境調査に関する専門家委員会の座長を務める三瓶委員が、資料3及び資料3の別紙により、令和5年度に行う調査内容と調査方法を説明した。令和6年度の現地調査は令和5年度の調査を踏まえて検討するとした。

また、河川環境シミュレーションは、適切なデータを用いて、再現性や正確性のある確度の高い手法を検討した上で、令和6年度に行う予定であることを説明した。

事務局から、資料3中の3調査計画、4スケジュールを説明した。

主な質疑の発言

○佐藤委員（農業者）

- ・出雲市馬木町に住んでいるが、神戸川の近年の魚類層が大きく変わってきている。普通に見られたオイカワやカワムツといった一般的な魚類が非常に見られなくなっている。完璧に近い河川環境調査が計画されているが、アユ以外の魚類は調査されないのか。

○三瓶委員（学識者、神戸川の河川環境調査に関する専門家委員会座長）

- ・アユはこれまで注目されているので代表魚種としている。そこで調査したところでは全ての魚種を含む。また、過去のデータを含めて、環境変化との関係で、どういう魚種がどういうふうに変化してきたかというようなことも過去のデータを含めて検討していくことを計画している。

○飯國委員（流域住民）

- ・平成29年確認書の前後に、15項目の問題提起がされている。その中に、2年間発電を止めて正常に戻った段階の調査も必要だという提言をいただいている。発電を止めることは合意に至らないということで、発電しながら現況を調査していくということになったと私は承知している。発電の水が神戸川へ60年間流れていたとしたら、神戸川の状況はどうだったのかというシミュレーションをお願いしたい。現況もだが、最初はこういう影響があったという納得感がないと。調査をやっていたというだけで、何か現況の追認みたいなことにはなっていないと思っている。

○三瓶委員

- ・神戸川の河川環境調査に関する専門家委員会としては、科学的なデータ、信頼のおけるデータ、それを基にしたシミュレーションを行う。シミュレーションでただ水を流すということで結果は出てくるが、それが現実的で信頼性があるものなのか、そこも慎重に検討する。
- ・最終的に分水の影響については、過去から現在に至るまで、地形等も自然の変化の中で変わっているので、そこはどの程度のシミュレーションを行うことが現実的であるのか、シミュレーションの客観性を考えて行っていく考えである。
- ・分水については様々な問題もあると思うので、調整会議といった上位機関で審議されるものと思っているし、そのための客観的な科学的なデータ及びそれに基づいた信頼のおける範囲でのシミュレーションを行うということが専門家委員会の役割だと認識している。

○神戸川漁協（組合長代理出席者）

- ・魚類の話が出た。神戸川でウグイが生きていけないのは、食物連鎖に原因がある。クロカワムシとか、食べ物がないと後が続かない。漁協としては雑魚も放す考えだが、結局魚の食べものが無かったら同じこと。なぜつながっていかないのか根本原因を調べてほしい。

○三瓶委員

- ・生物調査で魚類との関係を見る指標種として「トビケラ」を入れている。

○布野委員（流域住民）

- ・神戸川からの土砂の供給が極点に少なくなっている。因果関係はわからないが、長浜海岸の浸食は機を同じくして激しくなっている状況にある。ここ数年、土砂管理計画が策定され養浜を主体とした海岸保全が行われている。海への影響についても今回の調査の一部に加えていただきたい。

○三瓶委員

- ・河口閉塞の指摘があり、河口の堆積物の調査を行う。砂の流れによる動きなどや、それから上の供給、それらのバランスを含めて、河口での堆積物調査を詳細に行っていききたい。

○流域住民の代理出席者

- ・志津見ダム下流の出雲市橋波地区に住んでいる。水質の問題や来島ダムの分水問題が長年にわたって議論されているが、その中で最も強く言っていることは、生活者の感覚として水質汚濁はずっと続いているということ。水質シミュレーションを徹底的にやっていただいて、地区住民に説明してほしい。
- ・また、2021年7月の出水後に河川がきれいになった。増水後の1週間後とか、そういう時の河川環境も調査してほしい。

○三瓶委員

- ・ご指摘のようにフラッシュ放流などの後に、環境が変わるということもあり、それが自然の洪水などによっても起こるということはご指摘のとおり。それについては現地調査や、いろいろな事例を調べながら委員会で検討したい。

○石飛委員（流域住民）

- ・水質調査地点について、来島ダムの直下流が一番いい場所だと思う。ここで水質調査を行ってほしい。ダムから落ちた水がそのまま計れる。場所もいいし、大水でも流されない。その下流に行くと、もう支流がたくさん入り込んで、来島ダムの放流水と区別ができなくなる。
- ・もう1ヶ所、頓原川と来島ダムの合流地点を追加してほしい。

○三瓶委員

- ・放水のできるだけ近くが望ましいと思うので、現場を確認しながら、安全性とそれから継続性があるかを含めて検討している。
- ・観測地点の追加は、機器や予算の制約があるので事務局と相談したい。

○松尾委員（流域住民）

- ・分水が100年後どのような影響を生態系に与えるかを、現在の知見でもって明らかに検証していただきたい。それで、我々が今何を選択すべきか。幹事会で、生態系の問題ということで発言している。生態系の影響がわかるような形で調査報告していただきたい。

○三瓶委員

- ・100年後にというご指摘、この温暖化など気候変動もあるので、そういう長期スパンでシミュレーションというのは非常に難しいと思うが、検討していきたいと思っている。

○齋藤座長（学識者）

- ・100年後といいますが、2100年に地球の温暖化で40センチ海面が上昇する。島根の沖でも40センチ海面が上昇すると言われている。温暖化で冬の気温もかなり上がっているので、数十年から100年といったような予測というのは、今回の調査ではちょっと先が見通せない状況だと思う。まずは現状を理解して、それがベースとなると思う。

○井上委員（学識者）

- ・現地調査でアユの産卵場所の詳細な調査をするとあったが、他の河川で、実際に産卵時期にその産卵場所に入ることによって、産卵に影響があったという事例がある。事前に漁協と調整して、トラブルということにならないようにしてほしい。

○事務局

- ・事前に漁協に情報提供し、調整した上で行う。

3. 報告事項

○小畑委員、片山委員（中国電力）

- ・中電資料①により平成29年確認書の履行状況を報告

○片山委員（中国電力）

- ・中電資料②により木島ダムの常時毎秒2トン放流に伴う下流河川の環境変化について、2022年度の調査結果の概要を説明

主な質疑の発言

○松尾委員（流域住民）

- ・ダムに流入する水が、ダム湖でどういう変化が生じているのかということが知りたい。ダム湖での変化が把握できるような調査も、中電さんをお願いしたい。

○片山委員

- ・今のご意見も反映しながら、今回、河川環境調査が行われますので、そのデータを踏まえて検討させていただき予定にしている。

○齋藤座長

- ・中電資料①の5ページだが、オレンジ色の年間流入量データをみると、減っているように見えるが、可能であれば、地球温暖化で冬場の降水量がかなり減ってきているので、長期的な変動でどうなのか確認していただければと思う。

○片山委員

- ・確認させていただきます。

○三瓶委員

- ・松尾委員の発言に関連して、ダム湖の調査ではマンガンについても調査項目に入れているので、しっかり見てみたい。

○佐藤委員

- ・生物調査は、減水区間で調査がしやすいとは思いますが、そこが代表地点でよいか疑問がある。
- ・中電資料②の30ページのグラフは見にくいし、業種別の年変動なども整理してほしい。

○片山委員

- ・乙立と窪田の減水区間が。最も増放流の影響の効果を見やすいことから、調査地点にしている。
- ・中電資料②の30ページのグラフは、過去からこの資料を皆様方に御提供させていただいている。

○齋藤座長

- ・30ページの図は、一見して見にくいので、なるべく見やすい図を考えていただければと思う。

4. その他

事務局から学識者以外の任期が令和5年6月27日で満了するため、委員の選任手続きを進める旨を説明